

## 英語苦手改善・英語力向上への試み--SDGs を取り入れた文法授業--

水野 知津子\*

Trials on how to improve students' English ability and negative attitude toward

English learning --With activities including SDGs in grammar class--

Chizuko MIZUNO.

### ABSTRACT

This paper shows attempts to improve students' English ability, communication skills and negative attitudes toward English learning at the National Institute of Technology, Akashi College. Grammar learning is considered one of the biggest reasons why more than half of high school students find it difficult to understand and start having negative attitude toward English learning. Activities including story-making or SDGs-related tasks in group seem to motivate students to study.

**KEY WORDS:** SDGs, motivation, learning pyramid, survey result, collaborative learning

### 1. はじめに

グローバル化された世界で、異文化を理解し、誰とでも対等にコミュニケーションできる実践的英語力は不可欠になっている。より効果的な英語教育が求められているが、英語に苦手意識を持つ学生は多い。工学系学生（西澤・吉岡・伊藤、2010）だけではなく、文系を含む高校3年生全般でも過半数を超える学生が英語に苦手意識を持っている（水野、2019）。英語嫌いや英語学習のつまずきの大きな原因として中学生、高校生共にあげられているのが「文法」である（文部科学省、2014）。

この論文は、筆者が担当した2018年度と2019年度の「文法」授業を通して導入したSDGsの活動などを紹介しながら、英語苦手改善・英語力向上に向けての取り組みについて述べたものである。

### 2. 「文法」授業

前任校の高専では1年生に「文法」授業があった。1年間で殆どすべての基本的文法項目を学習させていた。ベテラン教員が「文法」授業担当であったが、「文法が難しく理解できない」という声を筆者担当の読解授業でよく聞き、補足問題や説明を行った。

明石高専では1、2年生対象に英語IAとIB、英語IIAとIIBがある。Aは「読解」、Bが「文法」授業である。英語IBでは殆どすべての基本的文法項目を理解させなければならない。IIBでは文法の応用を指導している。最近2~3年間の英語AとBの成績評価における欠点者数比較からも英語B「文法」で苦勞する学生がいるのが見てとれる。

筆者は2018年度と2019年度にBの「文法」授業を担当したが、「文法」に苦しむ学生が多いと感じた。文法が少しでも理解できるように、論文や学会の研修会などで有効とされる理論、指導法、活動などを取り入れた。また、学生が楽しんで参加できるオーセンティックな活動を考え、取り入れるようにした。SDGsの活動はこれらの最後のまとめの活動として導入した。

### 3. 英語指導理論と取り入れた活動

2018年度の英語IBでは殆どの基本的な文法項目を1年間で指導する必要があるため言語活動などを行う時間的余裕はほとんどなかった。しかし、文法問題には文脈がない例文が多く、使用場面を示すことができず、使い分けを学べない場合が多い。このため、導入時にできるだけ文脈が理解できるような対話の使用場面を加えた。また、学生が問題を解いた後に確認や解説をするが、その後に実際にその文法項目を含むペアでの対話や英文を書く作業も加えた。これにより学習者は自分の定着度を測り、理解度の検証ができる(阿野、2013)。

2019年度の英語IBでは文法の応用として英語構文の教科書を選んだ。構文は大学入試にも出題頻度が高い。授業開始当初は問題を学生が解いた後で確認、解説が中心の授業をしていた。しかし、そのまま英語表現として覚える内容が多く、1年生で学習した基本的な文法項目を確認して教科書を読めば十分に理解できる難易度でもあった。そのため有効と思えるいくつかの活動を追加し、取り入れた。理論に基づいて学生が退屈せずに理解を深め、定着ができる事をめざした。

#### 3・1 理論

##### 3・1・1 外国語習得理論

外国語習得には実際に目標言語を使用し、大量の理解可能なinputと適量のoutputを組み合わせる必要がある(白井、2012)。学習した内容を実際に使用することで習得が可能になる。Outputであるスピーキングやライティング活動が有効である。

目標言語使用に関しては、日本の高校・中学での英語教育現場では教室で英語を使用することが求められている。読解やコミュニケーションの授業ではできるだけ目標言語である英語を使用しながら指導するのが好ましいが、文法指導に関しては日本語による明示的指導が効果的である(村野井、2016)。

文法授業で目標言語を使ったinputを増やす為、筆者はB授業で毎回実施が義務づけられている単語帳を使った単語テストにディクテーション問題を2問含めた。毎回の授業で学生は英文を聞き、英文を書き取った。

##### 3・1・2 協働学習

言語はコミュニケーションの手段であり、他者との関わりの中で育まれる。学習者個人の言語知識の発達の源泉が、他者へのやりとりの中にあるとされ、近年、「ペアワーク」の関心が高まっている(吉田、2017)。初心者や苦手意識を持つ学生の発達を助けるのに有効

とされるのがペアやグループなどの協働作業である(Vygotsky、1978)。文法授業では教員の一方的な講義になりがちであるが、できるだけペアやグループ活動を取り入れ、苦手意識を持つ学生を他の学生を助ける事のできる環境を作った。

##### 3・1・3 学習定着度

学習定着度に関してはLearning Pyramidに従ってペアやグループで話し合いをする機会や活動を含めた。実際に学習した内容を使用する活動や、学生が教科書内容を他の学生に教える活動などを取り入れ、能動的で学習定着度が高くなるようにした。

Learning Pyramidはアメリカの教育学者Edgar Dale(1946)による「経験の円錐」が元になっている。学習定着度Learning Pyramid(図1)は仮定モデルであり、最近では数字的には科学的根拠が希薄と言われているが、実感や経験からは納得できる内容である。

このLearning Pyramidによると学習定着度は講義などを聞くのは5%、資料など読むのは10%、グループで議論するのは50%、実際に活動するのは75%となっている。最も効果があるとされるのが他者に教えることで、90%となっている。授業ではこの学習定着度Learning Pyramidを意識して指導法、活動を決めている。



図1 学習定着度 Learning Pyramid

##### 3・1・4 動機付け

動機づけは外国語学習者を成功へと導く、学習者要因の一つである。動機づけ研究は、言語教育、応用言語学、心理学という三分野にわたる研究である。動機付け研究は動機づけを実際の授業でどのように活かすかについて焦点が移ってきている(JACET SLA研究会、2006)。

外国語学習には学習者の個人的な差、社会的環境など、様々な要因があり、簡単ではない。英語教師に求

められるものが多い中で、学習者の動機づけは学習者を成功者にすることができる有効な方法である。

Dörnyei と Csizer (1998) によるハンガリーでの英語教師を対象にした調査結果「言語学習者を動機づけるための十戒 最終版」(図 2) と、Chen and Dörnyei (2007) による台湾での調査結果から、生徒の自律認識が台湾では低いという差などがあるが、動機づけ方略は文化や民族を超えて有益なものであるというのがわかる。英語教師として授業に積極的に取り入れることが授業改善に役立つ。

ハンガリーでの調査結果 [言語学習者を動機づけるための十戒 最終版]

1. Set a personal example with your own behavior. 教師が学生の良きモデルとなれ!
2. Create a pleasant, relaxed atmosphere in the classroom. 不安なき楽しい雰囲気をもて!
3. Present the tasks properly. 学生の興味を持つタスクを使え!
4. Develop a good relationship with the learners. 学生と良いラポートを築け!
5. Increase the learners' linguistic self-confidence. 言語に対する自信をつけろ!
6. Make the language classes interesting. 授業が面白いと学生に言わせろ!
7. Promote learner autonomy. 学習効果・成果は自己責任とする自律的学習者にせよ!
8. Personalize the learning process. 学生個人を知り、学生にあった学習にせよ!
9. Increase the learners' goal-orientedness. ゴール設定を強化せよ!
10. Familiarize learners with the target language culture. 英語に親しみをもたせよ!

図 2 言語学習者を動機付けるための十戒

### 3・2 取り入れた活動

英語 I B で殆どの基本的文法項目を学習した 2 年目の英語 II B では「文法」の応用として英語構文の教材を使用した。1 年で学習した文法項目を含む構文がほとんどで、しっかり読めば理解できる程度のわかり易い教材である。復習とポイント説明をした後、問題を解いてもらい確認した後は短時間ではあるが、ペアで日本語から英語に通訳してもらい定着できるようにした。

英語構文は大学入試や英語表現として使用頻度が高いが、多くの構文はそのまま覚えるだけのものが多く、単調で退屈になりがちであった。その為、答え合わせをした後にいろいろな活動を取り入れることにした。暗記中心の構文だけを選んで学生に班単位で構文の説明をしてもらい、答え合わせをするプレゼンテーションをしてもらった。人に説明する為にはしっかり自分で理解する必要がある。英語が苦手な学生も班単位という協働作業で同じ班の学生から学ぶことができ、また、learning pyramid から最も高い学習定着度を得ること

とができると考えた。しかし、学生による班単位のプレゼンは聞く側の一部学生からわかりにくい、など反応があまりよくなかったため別の活動に変えることにした。

学生の班単位によるプレゼンテーションの次に取り入れた活動は、dictogloss という活動である。これは「文章復元練習」である。授業前半は普通に教科書内容を解答、確認をしてもらった。2~3 回分の授業が終わった授業の後半にこの活動を入れた。実施方法は、①既習文法項目を含む短い英語のストーリーを 2~3 回読んで聞いてもらい、②学生は各自で聞き取った情報を班単位で相談し、このストーリーを復元、③班で発表してもらい、というものである。それなりに興味は持ってもらったが、思った以上の良い反応は出なかった。

フィリピンからの留学生が授業に参加するという連絡を受けた。留学生の人数はクラスによって異なる。異文化理解、コミュニケーションする良い機会と考え、留学生と班単位で交流してもらった。留学生に日本に来て感じた不思議なこと、質問などを学生に答えてもらった。必死で留学生の質問に答え、全体的に非常に楽しく時間を過ごしていた。

グループに分けて次に取り組んでもらった活動は、学生に既習の構文を一定の数以上使って班単位で物語を作ってもらうものである。この活動で、学生は本当に楽しそうに自分たち独自の物語を作ってくれた。ジャンルも様々で既習構文を上手く使ってオリジナルの物語を作ってくれた。これほど生き生きとした学生の態度を見るのははじめてであった。学生の興味を持ったタスクを実践することができた。前期はこの活動で終了した。後期に入って SDGs を取り入れた。

### 4. SDGs を使った活動

SDGs はメディアでも取り上げられ、電車内の広告に使用されたり、企業がこの意義を認識して奉仕活動をするなど、身近なものになりつつある。SDGs は国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」で、中核は 17 の持続可能な開発目標 (ゴール) と 169 のターゲットである (高柳・大橋、2018)。環境や格差の問題は勿論、貧困と飢餓、保健と健康、質の高い教育、ジェンダーなど幅広いグローバルな諸問題が含まれている。国を超えて様々な人々とコミュニケーションする時には当然その内容を理解し英語で自分の意見を述べる必要がある。大学入試や外部試験対策としても不可欠である。しかし、内容は日本語でも難しい部分が多く、英語力と内

容理解力の点から2年生の後半なら可能であると考えた。

#### 4・1 SDGsを使ったオーセンティックな社会貢献

2年生後半になると基本的な文法項目や重要英語構文の知識もでき、その定着度を高め自分自身で英語を使ってコミュニケーションすることが重要になってくる。教科書内の世界を飛び出して実際の本物の世界、オーセンティックな活動をすることができれば興味を高め、自信へとつながる。高専2年生は専門分野の知識は充分でないにしても高校生とは異なる高専生ならではの知識やアイデアを持って社会貢献できるのでは、と考えた。関西の大学生、高校生対象のSDGsアイデアコンテストを見つけ、実際に学生に参加してもらうことを決めた。取り組む時間は非常に短く、作品完成にはかなり厳しいものがあるが、実際に参加し、体験することが重要だと考えた。

##### 4・1・1 関西SDGsユース・アイデアコンテスト

参加申し込みをしたのは「関西SDGsユース・アイデアコンテスト」である。テーマは①環境問題、②食品ロス、③フリーテーマの中から選ぶことになっていた。作品提出期限は2019年1月26日であった。主催は「関西SDGsプラットフォーム」で、後援として関西地区の教育委員会や経済連合会などであった。共催としてJICAも含まれていた。

SDGsの内容を理解するには日本語でなくては難しい。英語訳も難易度の高いものが含まれるので班単位での話し合いや発表時も基本日本語でおこなった。発表作品は各班の判断で英語を含めることも可能であった。SDGsの説明に英語の翻訳を配布して必要に応じて使えるようにした。英語授業のまとめとして、班単位で行った活動を各自で英語で書いてまとめてもらうことにした。定期考査にも含めた。苦手な学生が困らないように個別指導の時間を確保した。

SDGsの内容理解と参加するコンテストの説明についてはJICAに「出張出前授業」を依頼した。JICAの「出張出前授業」は以前利用したことがあり、大変充実した時間が持てたので今回も協力をお願いした。「出前授業」では1年生4クラス合同の授業にして、SDGsについて説明、解説後、班単位で簡単な話し合いができるようにした。学生はしっかり参加していた。

##### 4・1・2 作品アイデア

非常に限られた短い準備時間だったにもかかわらず、学生たちのアイデアは素晴らしいものが多かった。発表ではスライドを作成し、分かり易く非常に工夫したものもあった。授業時間外で班のメンバーが協力して

作業しなければ完成できないものが多かった。いくつかのアイデアを紹介する(図3、4)

アイデアコンテストには「285点ものアイデアが集まり、その中の6点が最終審査に残った」と連絡を受けた。残念ながらその6点には選ばれなかったが、学

##### SDGsアイデアコンテスト

近年、日本でも格差問題が叫ばれているが海外ではより深刻である。今回我々は格差が大きい国で貧困と闘う家庭の子供の孤独や住み分けを防ぐアイデアを考えた。

それは海外版子ども食堂である。子ども食堂には子供達を孤独から守る以外にも様々な家庭の子供が顔をあわせ食事をすることで、部落や貧困地域を中心とした差別をなくすという重要な役割がある。相互理解による住み分け状況の改善。これがこのアイデアの一番の狙いである。

図3 子供食堂



図4 どうすればゴミとなるプラスチックを減らせるか

生達の熱意と努力は素晴らしいものであった。英語授業と何の関係があるのか、という批判の声もあったが、地球上の問題を意識し、問題解決に向けて自律的に学び他者と協力して作品完成をめざした姿は美しかった。グローバル化した世界で異文化の人々と英語で対等に意見交換をし、堂々と生きる国際人にとっては必要なことである。難易度の高い語彙も覚え、自分たちの作品説明を英語で表現したことは自信を持って欲しい。

##### 4・1・3 班活動についての英作文

授業最後のまとめとして英語で班活動や作品について説明してもらった。いくつかを紹介したい。



Our theme is to reduce plastic productions on the earth.  
 For that, we made an idea, which people don't use plastic bags. Socket — a bag made of old clothes — helps us with reducing plastic productions.  
 I talked about SDGs in our group. Then, one member said to other members that global warming is rapidly growing by burning most of plastic productions. Therefore, we thought how to reduce them.  
 Socket is inspired by the mouth of siberian conger. It becomes the open of this bag.  
 To make this, there are two reasons.  
 First, CO<sub>2</sub>, by burning them, is discharged a huge amount by burning them.  
 Second, some of old clothes are thrown away without wearing again.  
 I learned from this activity that it's important to communicate with various people.

図5 英作文1

Our theme is "change the world".  
 Our idea is to participate in politics.  
 We made it based on our opinion.  
 We must participate in politics.  
 There are two reasons.  
 First, we don't have power to change the world.  
 But member of the Diet has power to change the world.  
 We should go to the polls.  
 Second, profit is the most important for member of the Diet.  
 We must change member of the Diet.  
 We should go to the polls.  
 For these reasons, we must participate in politics.  
 I <sup>was</sup> able to learn about environment.  
 It was good experience for me.

図6 英作文2

The theme we chose was "The Idea for Solving the Environmental Problems".  
 As I had a lot of ideas, I proposed them to my team members and we decided the theme soon.  
 The name of the idea is "The LUNCH BOX for BREADS".  
 This is an item to put in the breads we bought. It can be washed with water and used repeatedly. That is why, it is not just good for environment, it is good for hygiene.  
 By the way, there are several reasons why we suggested it.  
 The biggest reason is that we have to reduce plastic wastes. Nowadays, most bakeries use too many plastic bags to wrap breads. It is definitely not good for environment.  
 Second, we can't use plastic bags over and over again. Many people throw them away after eating breads.  
 For these reasons, we thought it was important to reduce plastic wastes to solve the environmental problems.  
 About the process of our activities, it was a good experience for me to do these activities because I shared my opinions a lot.  
 Thank you for reading !!

図7 英作文3

## 5. まとめ

英語苦手改善・英語力向上に向けて取り組みを紹介

した。「読解」授業は様々な話を読んでいくことで英語を苦手とする学生でも比較的楽しく学習することができる。一方で「文法」授業は文脈のない例文が並び、文法項目が理解できない場合は英語に対して苦手意識や英語嫌いの原因となり易い。第二言語習得理論や研究に基づき、有効であると考えられる活動や指導法を取り入れた。高専での文法指導は初めてであったが、学生の好む活動や指導法について理解を深めることができた。改善を求めるあまり今回は限られた期間に様々な活動を入れたことで学生が戸惑ってしまった可能性がある。事前の指導計画を充実させ、今後に生かしたい。

## 参考文献

- 1) 阿野幸一. (2013). 「解説からコミュニケーションにつなげる文法指導」. 『英語教育』 第62号、第9号、10-11項
- 2) 伊藤和晃・西澤一・吉岡貴芳. (2010). 「工学系学生の苦手意識を克服し自立学習へ導く英語読授業」. 『工学教育』 第58号3、12-17項
- 3) Cheng, H.-Fu, and Dörnyei, Z. (2007). The Use of motivational strategies in language instruction: The case of EFL teaching in Taiwan. *Innovation in Language Learning and Teaching, 1*, 153-174.
- 4) Dörnyei, Z. and Csizer, K. (1998). Ten commandments for motivating language learners: Results of an empirical study. *Language Teaching Research, 2*, 203-229.
- 5) 水野知津子. (2020). 「高専学生の英語嫌い減少と実践的英語力向上をめざして-[英語学習調査結果]からの考察」. 『明石高専紀要』 第62号、23-29項
- 6) 村野井仁. (2016). 「英語を用いた読解活動と文法習得--英語で英語を教えるということ--」. 『KELESジャーナル』 2016 Vol.01, 38-43項.
- 7) <https://allabout.co.jp/gm/gc/449536/Learning> Learning Pyramid ラーニングピラミッドとは? 学習定着率アップの鍵 検索 2020年10月3日.
- 8) JACET (大学英語教育学会) SLA 研究会. (2006). 『文献からみる第二言語習得研究』 東京: 開拓社
- 9) 白井恭弘. (2012). 『英語教師のための第二言語習得論入門』 大修館書店.
- 10) 高柳彰夫・大橋正明. (2018). 『SDGsを学ぶ—国際開発・国際協力入門』 法律文化社.
- 11) Vygotsky, S. (1978). *Mind in society The development of higher psychological processes*. Harvard University Press